

- 調査テーマ 小学生・中学生・高校生の生活時間の実態と意識に関する調査
- 調査方法 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期 2013年11月11日(月)～15日(金) ※第1回調査：2008年11月10日(月)～14日(金)
- 調査対象 第1回調査(2008年)：全国の小学5年生～高校2年生 合計8,017名  
第2回調査(2013年)：全国の小学5年生～高校3年生 合計8,100名

	小学生		中学生			高校生			合計
	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生	
配布数(名)	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	29,400
有効回収数(名)	1,245	1,162	1,130	1,049	1,103	857	763	791	8,100
	2,407		3,282			2,411			
有効回収率(%)	32.7		29.8			21.9			27.6

※調査対象者は、全国の小学5年生～高校3年生のリストに基づいて無作為に抽出した。

- 調査の枠組み 本調査は、時間の使い方についてアンケート形式の設問に回答してもらう部分(PART I)と、平日24時間の生活を15分単位で記入してもらう部分(PART II)から構成されている。このうち、PART Iの結果を本速報版にまとめた。



- 調査項目 ぶだんの生活時間／習い事／学習塾の利用／部活動(中・高校生のみ)／アルバイト(高校生のみ)／土曜日の過ごし方／1年間にすること／もっとも好きな時間／時間の過ごし方／時間の使い方の点数／家族と決めている時間のルール／将来について／日本社会について／心や身体の疲れ／ぶだん使用する電子機器／成績の自己評価／希望する進学段階など

### ■分析にあたって

- ①本文中では、小学5年生を小5生、小学6年生を小6生、両者を合わせて「小学生」と表記し、中学生も同様に、中1生、中2生、中3生を合わせて「中学生」と表記している。高校生については、第1回調査(2008年)で高校3年生を対象に含めていなかったため、経年比較をする場合は高1生、高2生を合わせて「高校生」と表記し、単年度(2013年調査)結果を示す場合には高1生、高2生、高3生を合わせて「高校生」と表記した。
- ②郵送法による調査であるため、調査対象には、小学校、中学校、高等学校に在学していない子どもがわずかに含まれている可能性があるが、合わせて小学生、中学生、高校生として分析している。
- ③図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

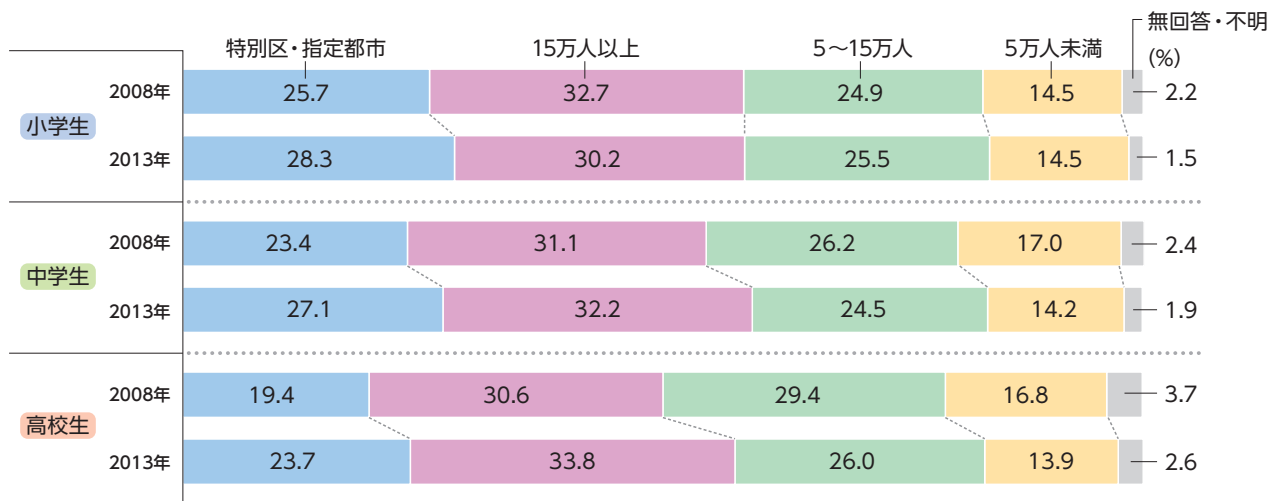
## 目 次

調査概要……………2	②学習塾の時間……………13
回答者の基本属性……………3	③部活動の時間……………14
<b>1. 基本的な生活時間</b> ……………4	④土曜日の過ごし方……………15
①睡眠時間……………4	⑤1年間にすること……………16
②学校の宿題をする時間……………5	<b>3. 時間に関する意識</b> ……………17
③宿題以外の勉強の時間……………6	①時間の過ごし方……………17
④外での遊び・スポーツの時間……………7	②時間の使い方の点数(自己評価)……………18
⑤人と過ごす時間……………8	③もっとも好きな時間……………19
⑥メディアの時間……………9	④心や身体の疲れ……………21
⑦デジタル端末の使用状況、用途……………11	⑤将来について……………22
<b>2. 小・中・高校生の特徴的な生活時間</b> ……………12	⑥日本社会について……………23
①習い事の時間……………12	調査企画・分析メンバー……………24

# 回答者の基本属性

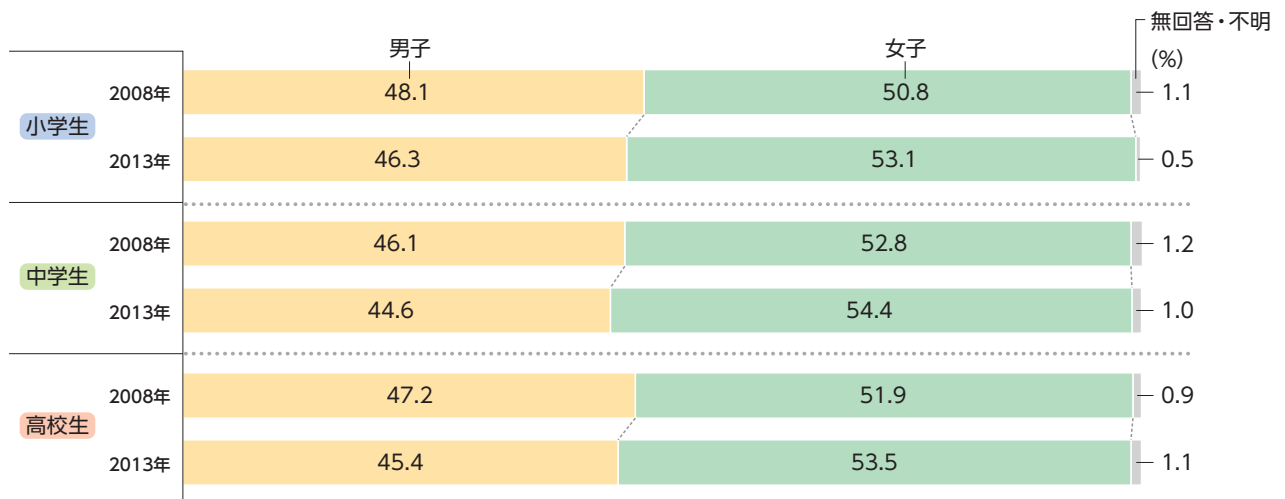
## 居住地域(人口規模別)

●この5年間で政令指定都市が3市増えたこともあり、「特別区・指定都市」がわずかに増加した。



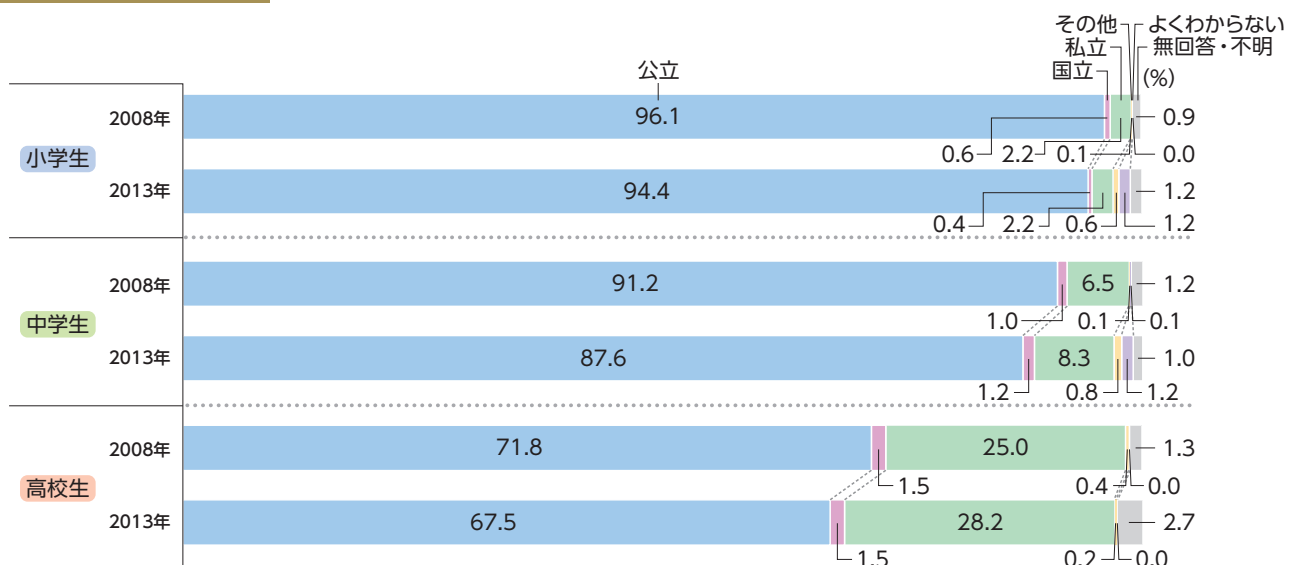
## 性別

●小学生、中学生、高校生のいずれも、「女子」の回答が多い。



## 通っている学校の種類

●中学生、高校生で「私立」に通っている子どもの回答割合が、わずかに増加した。



注 高校生は第1回調査(2008年)が高1~2生、今回調査(2013年)が高1~3生。